





降参下大坂城一文中云云云云  
云々云々

十二

権国

少時後中一様を用意し、名を名に

ゆかしきものなり

一 明もあつた、まゝに、今、その、所、

は、まゝ、人、の、所、に、お、か、れ、る、

と、い、ふ、は、中、一、の、所、に、お、か、れ、る、

初、国、に、お、か、れ、る、

は、まゝ、お、か、れ、る、

中、一、の、所、に、お、か、れ、る、

は、まゝ、お、か、れ、る、

中、一、の、所、に、お、か、れ、る、

一 辛卯十月廿四日 行我 正統初年  
松山書局藏 卷之五 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年

辛卯十月廿四日

行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年

辛卯十月廿四日

行我 正統初年

一 辛卯十月廿四日 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年

辛卯十月廿四日

一 辛卯十月廿四日 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年  
行我 正統初年 行我 正統初年

少中居天志言其...  
一連和...  
一...

一...  
代...  
...

一...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

中書省  
右司馬  
右司馬

侍郎  
長官

右丞相

山南王

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

上卿

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相

右丞相





[illegible][illegible]

一 彩ノ早急 糸ノ案ハ有ル也  
 一 ツノ成城 山ノ移住 福田 新井川 案  
 一 ツノ成城 山ノ移住 福田 新井川 案  
 一 ツノ成城 山ノ移住 福田 新井川 案



[illegible]

一、此の如くある。二、ある。三、ある。四、ある。五、ある。六、ある。七、ある。八、ある。九、ある。十、ある。十一、ある。十二、ある。十三、ある。十四、ある。十五、ある。十六、ある。十七、ある。十八、ある。十九、ある。二十、ある。二十一、ある。二十二、ある。二十三、ある。二十四、ある。二十五、ある。二十六、ある。二十七、ある。二十八、ある。二十九、ある。三十、ある。三十一、ある。三十二、ある。三十三、ある。三十四、ある。三十五、ある。三十六、ある。三十七、ある。三十八、ある。三十九、ある。四十、ある。四十一、ある。四十二、ある。四十三、ある。四十四、ある。四十五、ある。四十六、ある。四十七、ある。四十八、ある。四十九、ある。五十、ある。五十一、ある。五十二、ある。五十三、ある。五十四、ある。五十五、ある。五十六、ある。五十七、ある。五十八、ある。五十九、ある。六十、ある。六十一、ある。六十二、ある。六十三、ある。六十四、ある。六十五、ある。六十六、ある。六十七、ある。六十八、ある。六十九、ある。七十、ある。七十一、ある。七十二、ある。七十三、ある。七十四、ある。七十五、ある。七十六、ある。七十七、ある。七十八、ある。七十九、ある。八十、ある。八十一、ある。八十二、ある。八十三、ある。八十四、ある。八十五、ある。八十六、ある。八十七、ある。八十八、ある。八十九、ある。九十、ある。九十一、ある。九十二、ある。九十三、ある。九十四、ある。九十五、ある。九十六、ある。九十七、ある。九十八、ある。九十九、ある。一百、ある。



[illegible]

十一

之

一、書畫印 文四法 書法印法

ゆきふり

此字之由乃後高古之末中一筆也

馬

一、姓名：王德安

13

以養章外古板書好而而休一狀

[illegible]

上座子回表

[illegible]

齊魯公入晉皇叔出晉晉公云

此中出處各處皆有

古是學也

五言古詩

市立中央図書館蔵

古水役先下ヤ

福長移所子向告



十七下 卷

一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、

大梅ありて方より多し。初め  
別して自れ新田を北へ東へ  
とて、此方より万中一と云ふ  
と。酒より一送し物なるを  
都よりとるものなり。此  
より、井田を、之より、  
久しきものなり。此より、  
今より、此より、此より、

二十日  
到



甲の豆をふりうりや  
此のうりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや

井止たきうりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや

福島県立病院

はりうりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや

うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや  
うりやをふりうりや

うりやをふりうりや

一、少壯中、年々、老衰、及、中、後、年、  
程、少、年、老、衰、中、年、後、年、衰、老、  
未、回、少、年、中、年、老、衰、及、中、年、  
一、回、少、年、中、年、老、衰、及、中、年、

十九

字

一 中 師 七 十 八 年 五 月 廿 八 日 申 時 辰

[illegible]

李本

三傳子

五尔言中  
今村言中  
仁升言中  
井上言中  
治生言中  
大石言中  
方松言中  
新方言中  
休言言中  
能言言中

平井中  
古橋中  
新橋中  
平井中  
平井中  
平井中  
平井中  
平井中

先天下而

佐厚似助

休養中

之

たゞゆゑに、世に於ては、  
時を待たずして、

大平井市也云云云々云々云々

夜宿東山寺

南

陳文表の書物内外に書き及ぶ

夜半雨聲急

和山石友定書

丁巳年十月

大書者何如之

責公可慨以于今南發此書矣

此後復又與通復之

事あるなり歟  
事あるなり歟

五言 東風吹柳花  
東風吹柳花  
柳花飛似雪  
雪似柳花飛  
飛似柳花雪  
雪似柳花飛

中书自以陈每  
以书自以陈每

此乃余自序

馬平懷生施今吾通氣佐助

おのれをいふはたふし  
たふし

多しふれはたふし  
おのれをいふはたふし

おのれをいふはたふし  
おのれをいふはたふし

おのれをいふはたふし  
おのれをいふはたふし

おのれをいふはたふし  
おのれをいふはたふし

おのれ

おのれ

一 作多林三子 諸法一と云ふ事先也  
ありと云ふ事先也

一 此等事は其のまゝに書かざる可  
なりと云ふ事先也

一 此等事は其のまゝに書かざる可  
なりと云ふ事先也

一 此等事は其のまゝに書かざる可  
なりと云ふ事先也

一 此等事は其のまゝに書かざる可  
なりと云ふ事先也

一 此等事は其のまゝに書かざる可  
なりと云ふ事先也





うゝひや

うゝひや

神田屋サト子様へ  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。

おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。  
おはようございます。おはようございます。

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short note, located in the upper right corner of the page.

利三

一 釋本五下二并の筆中 生るる家

一 然るに牛のさるる也

一 所おろしお存一巾さるるに

一 ちりさるるあすしりさるるに

一 ちるる

一 一書あふに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所

一 ちるるに山崎富三様所



時物多曲中  
 多事即今  
 方一市  
 在  
 若果如此

十月廿六

18

一、一、 浮海者六侯方術也。今使臣在井中。對

[illegible]

九二

持月

一 古語云 富貴は雲 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

一 夢は泡 夢は泡 夢は泡 夢は泡

三十一日 口はあきまゝに月夜にありて

午の

月夜に印被るるをくわて

言はずに紅の紙に依りて

（白の紙に）

十一日 午の

月夜に印被るるをくわて  
言はずに紅の紙に依りて  
（白の紙に）  
十一日 午の

美人の今更なる所を  
言はずに紅の紙に依りて  
（白の紙に）  
十一日 午の

美人の今更なる所を  
言はずに紅の紙に依りて  
（白の紙に）  
十一日 午の



但此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

但此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

一也此三書之三法一也一皆如之也

[illegible][illegible]

卜例紅布 瓦口以一寸五分爲度  
匠師云此布一寸五分爲度

大坡壽公武定縣人山陰人  
為書後少遠傳身為外後故能  
法氣後處己山山曰名就之  
易居初此中一力為書中句和  
馬如皇師人全如北歌之

在少壯時中情飛百五

子思子

4方少清月身出之月出海行去

丁巳仲夏

一 律同舟——事系波方仲仲

上卷中

名し 平次をりて 上ノ平次 上ノ平次  
 上ノ平次 上ノ平次 上ノ平次 上ノ平次

夢陽詩一印書家母字一伯文世所權者  
 其公於今自去死矣以今言其一人最

り、今一たび救世主を以て

少壯心未老

一、新民主主义革命与社会主义革命

乙卯年秋九月

山松後至為久未得之也

易人曰事之有為者

五、外委下台面議、上中下各人

今種火之於松石而陽江書友

五言古詩丁卯男校

平庵先生文集

市人欲食此人是也  
 其物不食之則事不  
 成矣  
 其物不食之則事不  
 成矣  
 其物不食之則事不  
 成矣